

## 事業&活動報告

### ■ ご存知ですか？「市民活動伝言板」

千葉市民活動支援センターの入口正面ある「市民活動伝言板」をご覧になられたことはございますか？ボランティアや市民活動に関する情報を掲示しています。個人の方も利用できます。スペースは下記のように大別、掲示には申込が必要ですので、お気軽に声を掛けて下さい。

- ① ボランティアしたい…個人からの申し出も掲示。
- ② 探しています…ヒト・モノ・場所などお探ならココ。
- ③ こんな活動しています…告知や報告、団体のPRにも。
- ④ 募集します…会員やボランティアの募集。寄付にも。



### ■ コロナアンケート結果報告

コロナ禍で市民活動がどんな影響を受けたかのアンケートを実施。ネット上の回答も含めて50件近くの回答が集まりました。協力への御礼と共に、簡単にご報告します。

#### 【質問1：どんな影響があったか】

回数の減少や中止が圧倒的に多く、書面会議やオンラインへの切替も多く見られました。物販や会員拡張が困難という回答が多い中、オンラインで参加しやすくなった人がいる、問合せが増えた等プラスの回答もありました。

#### 【質問2：どんな対策をとったか】

マスクや検温、消毒は「常識」、オンライン会議も普及しました。一方、スマホやネットに対応できない会員の多い団体は苦戦しています。

#### 【質問3：センターへの要望】

Zoomやオンラインの講座の要望が多く、対応するには設備拡充が必要。フェスタは、相談・体験・物販の希望が多く、ハイブリッド開催を進めることになりそうです。

### ■ 「市民活動マッチングカタログ」掲載団体募集！

3月号で予告をしましたとおり、ボランティアや新メンバーを積極的に受け入れている市民活動団体を紹介する「マッチングカタログ」を作成します。今回は概ね10～20歳代の「ワカモノ」をターゲットにし、市民活動への参加のきっかけとしてもらうことが大きなねらいです。

カタログには連絡先等の基本的な情報はもちろん、写真やメッセージも掲載し、団体の魅力や「ワクワク感」が伝わるような内容とします。詳しくは、掲載申込書(募集チラシ)がございますのでご覧いただき、掲載を希望される

団体はまずはお申込み下さい。締切は5月17日、また対象は、当センターの登録団体のみとさせていただきます。

なお、チラシはホームページからダウンロードできる他、ご連絡をいただければメール等でお送りします。お申込みいただいた団体には、原稿作成についての詳しいご案内を別途お送りします。

多くの団体のお申込みをお待ちしています！



ミニコラム

## ちばさぽの風 vol.43

## 今、オリパラのレガシーを考える

1年延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催が迫ってきました。この原稿を書いている時点では、未だ新型コロナウイルスは終息の気配を見せておらず、3月下旬には海外からの観客受け入れを断念することが決まったり、公道での聖火リレーを中止する都道府県が出てきたりと、祝祭ムードがないままカウントダウンが進んでいるという印象です。

そんな中、競泳の池江璃花子選手が五輪出場の切符をつかむという、明るいニュースも飛び込んできました。大会の開催に対してさまざまな考え方があるとは思いますが、何とか安全・安心を確保して、大会が開催されるといいなと個人的には思っています。

さて、当センターでは2017年より、オリパラの開催も視野に入れ、ボランティアを養成する講座を開催してきました。“きっかけづくり”を主なねらいとしており、これまで累計で300名以上の方に受講いただいています。その中には「大会関連ボランティア」に応募し、採用された方もいらっしゃいますが、活動分野によっては(特に外国語でのアテンドなどは)需要が少なく、ボランティアの活躍の場が少なくなってしまうことも予想されます。

先日たまたま、「大会関連ボランティア」の方と交流する機会に恵まれました。モチベーションが下がってしまっ

ているのではないかと心配でしたが、それはまったくの杞憂で、皆さんとてもイキイキとしていて、開催までのプロセスも楽しんでいるようでした。オリパラ終了後もボランティアを続け、まちづくりに関わっていききたい、といった言葉も聞かれました。

ふと、「レガシー」という言葉が頭に浮かびました。大会の公式サイトによると、レガシーとは「オリパラの開催により、開催都市・国が長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵のこと」だそうです。私は正直に言うと、この説明がすんなりとは頭に入ってきません。ですが、ボランティアの方が「まちづくりに関わっていききたい」という思いをもたれたことは、レガシーに他ならないのではないかと感じました。

今後の新型コロナウイルスの状況によっては、ボランティアに限らず、市民の大会への参画の仕方は大きく変わってくるでしょう。ただ直接的な参画はできなくても、競技を見るだけで何か感じることもあるかもしれません。公式サイトには、「レガシーを残すために(中略)さまざまなアクションに取り組む必要がある」といったことも書かれています。レガシーは残すものでなく、“残る”ものなのではないのでしょうか。まずはじっと、7月23日のオリンピック開幕を待とうと思います。(は)